

日本テスト学会 第 24 回大会

発表論文抄録集

2026 年 9 月 14 日（月）～ 9 月 15 日（火）

実践女子大学 渋谷キャンパス



The Japan Association for Research on Testing

日本テスト学会 第24回大会

主催／日本テスト学会 第24回大会実行委員会

協賛

日本テスト学会第24回大会を開催するにあたり、以下の企業・団体の皆様より、多大なご支援を賜りました。ありがとうございます。心より感謝申し上げます。

- ・ 株式会社内田洋行
- ・ 株式会社教育測定研究所
- ・ 株式会社図書文化社
- ・ 株式会社日本経営協会総合研究所
- ・ 株式会社ハピラル・テストソリューションズ
- ・ 株式会社リクルートマネジメントソリューションズ
- ・ 公益財団法人日本人事試験研究センター
- ・ プライムフォース株式会社
- ・ プロメトリック株式会社

<50音順>

日本テスト学会第24回大会実行委員長
実践女子大学
林 篤裕

ごあいさつ

日本テスト学会第 24 回大会を、2026 年 9 月 14 日（月）・15 日（火）の両日、実践女子大学渋谷キャンパスにおいて、昨年に引き続き対面形式で開催いたします。

近年、教育評価を取り巻く環境は大きく変化しています。生成 AI をはじめとする新たな技術の進展、学習者の多様化、社会から求められる能力観の変化などに伴い、テストに求められる役割や在り方も、改めて問い直されています。一方で、妥当性・信頼性・公平性といったテストの根幹をなす理念は、時代の変化を経てもなお重要な課題であり続けています。

そこで本大会では、『テストの将来を探る』をメインテーマとして掲げました。テスト研究の未来を考えるためには、新たな技術や方法論に関する研究だけでなく、これまで蓄積されてきた理論的・実践的知見を見つめ直し、その意義を改めて確認することも欠かせません。テストの設計・運用・分析・活用に関する研究はもちろんのこと、教育測定、心理測定、資格試験、入学者選抜、CBT、生成 AI の活用、学習評価、統計手法など、多様な視点からの議論を期待しております。

なお、本大会では一般研究発表に加え、次の 3 つの企画を予定しております。

- ・「やさしい認知診断モデル—GDINA と Q 行列の理解を通じた学習者診断の基礎—」
（チュートリアル、9 月 14 日午前）
- ・「受験者視点から問い直すテストのあり方」
（大会実行委員会企画シンポジウム、9 月 14 日午後）
- ・「テストのパラダイムシフト」
（研究委員会企画シンポジウム、9 月 15 日午前）

本大会が、研究者、実務家、学生の皆様がそれぞれの立場から知見を共有し、新たな研究課題や協働の可能性を見出す場となれば幸いです。各種発表はもちろん、懇親会においても、準会員や学生をはじめとするキャリア初期の皆様が参加しやすく、交流しやすい場となるよう準備を進めてまいりました。懇親のひとときを通して、所属や年齢、職位、専門分野の枠を超えた新たなつながりが生まれることを期待しております。

最後になりますが、実行委員一同、本大会が皆様にとって有意義で実り多いものとなりますことを願っております。多くの皆様にご発表・ご参加いただけますことを、心より感謝申し上げます。晩夏の渋谷において、皆様と直接お目にかかり、活発な議論と交流の機会を共有できますことを心より楽しみにしております。

日本テスト学会第 24 回大会実行委員長
実践女子大学
林 篤裕

大会日程

<1日目 / 2026年9月14日(月)>

受付開始：9時40分

	A会場（403講義室）	B会場（404講義室）
10:10～ 12:10	チュートリアル 「やさしい認知診断モデル —GDINAとQ行列の理解を通じた学習者診断の基礎—」	
12:10～ 13:20	昼休み	
13:20～ 14:00	総会 (池田央先生を偲ぶ時間を設けます)	
14:10～ 16:10	大会実行委員会企画シンポジウム 「受験者視点から問い直す テストのあり方」	
16:20～ 17:40	一般研究発表 1	一般研究発表 2
18:20～ 20:20	懇親会（南国亭 渋谷一号店）	

※理事会を12:20～13:10に401講義室で開催します
(詳細は該当の皆様へ別途ご連絡差し上げます)。

<2日目 / 2026年9月15日(火)>

受付開始：9時40分

	A会場（403講義室）	B会場（404講義室）
10:10～ 12:10	研究委員会企画シンポジウム（公開） 「テストのパラダイムシフト」	
12:10～ 13:20	昼休み	
13:20～ 15:00	一般研究発表 3	一般研究発表 4
15:20～ 17:00	一般研究発表 5	一般研究発表 6

※編集出版委員会を12:20～13:10に401講義室で開催します
(詳細は該当の皆様へ別途ご連絡差し上げます)。

大会へ参加される皆様へ

受付	六本木通り沿いに建つ白い 17 階建てビルが創立 120 周年記念館です。正面階段を上ったところにある守衛室で本大会参加者である旨をお伝えいただければ入館できます。エスカレーターかエレベーターで 4 階にお上がりください。410 演習室に受付を開設しておりますので、本大会の受付番号をお申し出ください。受付開始時刻は両日とも 9 時 40 分を予定しております。
総会	大会 1 日目〔9 月 14 日（月）〕 13 時 20 分より、A 会場（403 講義室）で行います。日本テスト学会会員の方はご参加ください。
懇親会	大会 1 日目〔9 月 14 日（月）〕 18 時 20 分より、「南国亭 渋谷一号店」（徒歩 10 分程度）にて行います。なお、南国亭には渋谷駅前店もありますので、お間違えないようお願いします。
クローク	クロークは開設いたしません。恐れ入りますが、お荷物は各自で管理してください。
喫煙場所	キャンパス内は 全面禁煙 です。
昼食	夏季休暇中のため、学内食堂等は営業しておりません。キャンパス周辺の各種飲食店をご利用ください（簡単なランチマップをご用意します）。
休憩室	両日とも 402 講義室を開放しています。
緊急連絡先	発表者の欠席等、急を要する連絡が必要な場合は、実行委員会メールアドレス（ headquarter@jart2026.ywstat.jp ）までお知らせください。
無線 LAN	eduroam に参加している大学・研究機関等に所属している方は、キャンパス内で eduroam をご利用いただけます。所属機関でアカウントを取得してご利用ください。また、学内 LAN のゲスト用設定を受付で配付します。
発表賞推薦	大会発表賞の推薦を承ります。 推薦は以下のフォーム（Google form）からお願いいたします。 https://forms.gle/TNDFAVk7agHe38cx5 （推薦受付期間：9 月 14 日（月）～16 日（水））

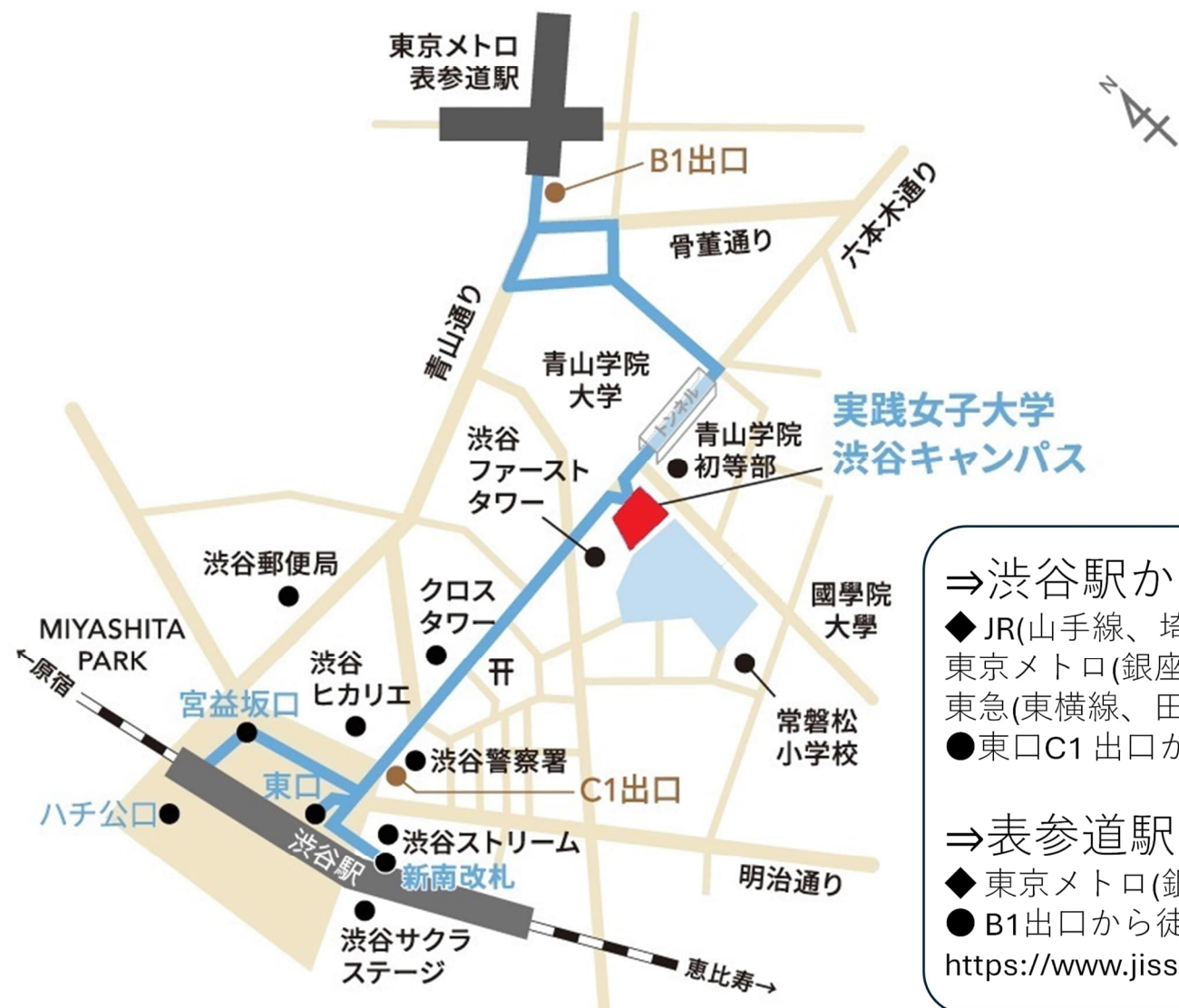
一般研究発表：発表者の皆様へ

- 発表時間** 原則として、1 件の発表につき発表時間 15 分・質疑応答 4 分・入れ替え 1 分とします。
- PC 機器** 会場では液晶プロジェクターおよび大型スクリーンが利用できます。発表用の PC は、原則としてご自身のものをご持参ください。プロジェクターとの接続には HDMI を用います。発表前にプロジェクターとの接続および動作をあらかじめ確認しておいてください。ご事情によりご自身の PC を持参することが難しい場合は実行委員会メールアドレス（headquarter@jart2026.ywstat.jp）までご連絡ください。

座長の先生方へ

- 進行管理** 予定時間を超過しないように、時間管理をお願いいたします。
- スタッフ** 当日は各発表会場にスタッフを用意しています。何かありましたらスタッフまでお申し付けください。
- 緊急連絡先** 大会期間中、急を要する連絡が必要な場合は、受付か実行委員会メールアドレス（headquarter@jart2026.ywstat.jp）までお知らせください。

アクセスマップ



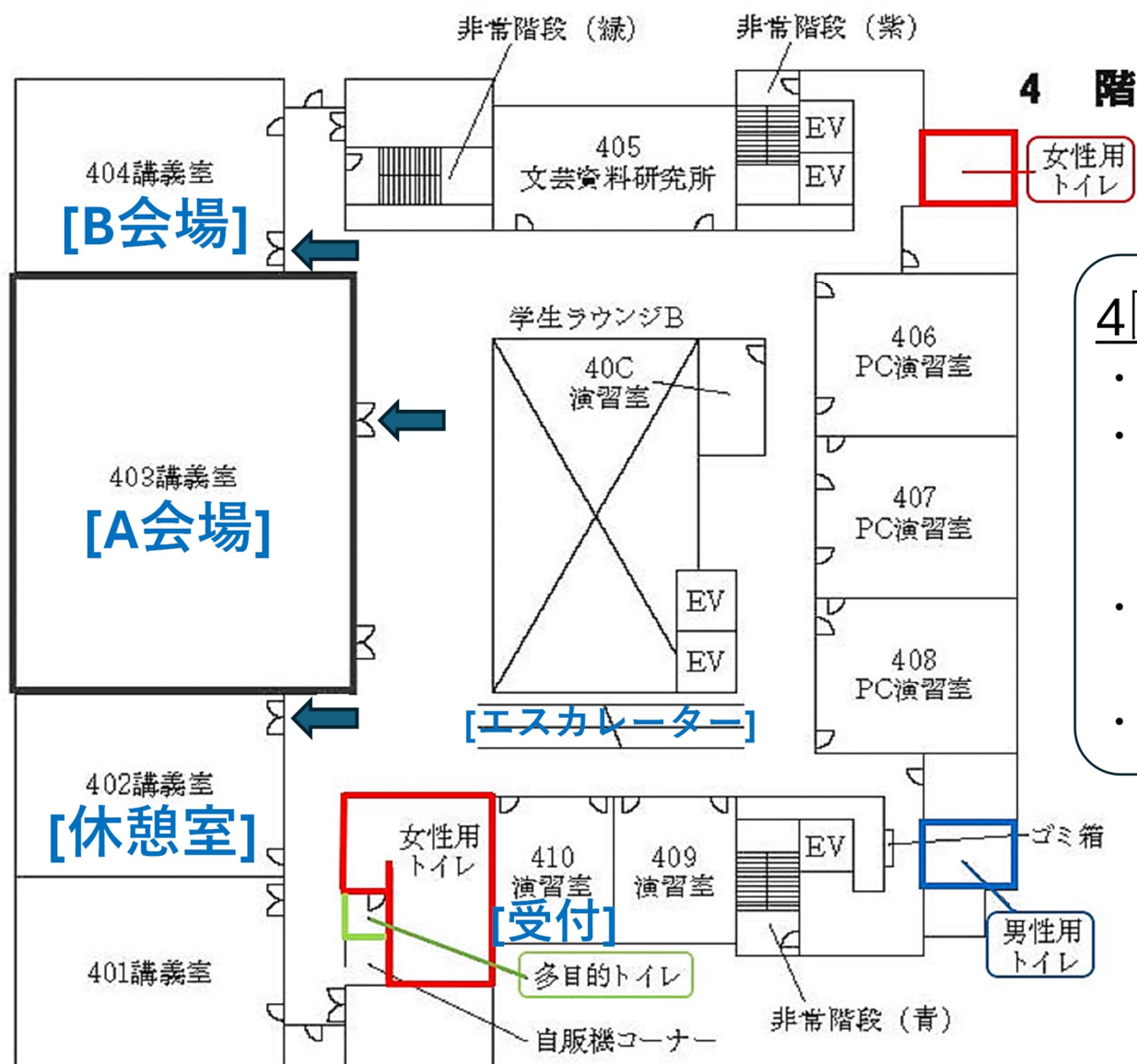
⇒渋谷駅から

- ◆ JR(山手線、埼京線、湘南新宿ライン)／東京メトロ(銀座線、半蔵門線、副都心線)／東急(東横線、田園都市線)／京王井の頭線
- 東口C1 出口から徒歩約10分

⇒表参道駅から

- ◆ 東京メトロ(銀座線、半蔵門線、千代田線)
 - B1出口から徒歩約12分
- https://www.jissen.ac.jp/access_guide/

創立120周年記念館 フロアマップ(4階)



4階

- ・ 大会受付(410演習室)
- ・ A会場(403講義室)
(シンポジウム、
一般研究発表、総会)
- ・ B会場(404講義室)
(一般研究発表)
- ・ 休憩室(402講義室)

9月14日(月) 10:10 ~ 12:10

チュートリアル

「やさしい認知診断モデル

—GDINA と Q 行列の理解を通じた学習者診断の基礎—」

近年、学習者一人ひとりの理解状態やつまずきの原因を詳細に把握し、それぞれに応じた指導や支援を行うことの重要性が高まっている。そのための有力な方法として注目されているのが認知診断モデル (Cognitive Diagnostic Models: CDM) である。CDM は単なる得点の評価にとどまらず、「どの知識や技能を習得しているのか」「どこでつまずいているのか」を診断できる点に大きな特徴がある。

本チュートリアル・ワークショップは、初心者から上級者までを対象とした三段階構成で行う。まず第 1 部では、CDM をまったく知らない方のために、DINA モデルを用いて入門的な解説を行う。数式を必要最小限に抑えながら、CDM の考え方や有用性を直感的に理解できるよう説明する。続く第 2 部では、中級者向けに G-DINA, LCDM を中心として、さまざまな CDM を統一的に理解するための枠組みを紹介する。多くのモデルが一般化モデルのサブモデルとして整理できることを示す。最後の第 3 部では、上級者を対象として、CDM の成否を左右する重要な要素である Q 行列の検証・改良・識別・推定について説明する。近年提案されている方法を紹介しながら、実践的な分析手順について学ぶ。

講義で使用する分析例はすべて R 言語のスクリプトとして配布され、参加者自身が容易に再現できる。チュートリアル終了後も、配布資料とスクリプトを用いて復習しながら理解を深めることが可能である。これから CDM を学ぶ方から、研究や実務で活用している方まで、認知診断モデルの全体像と実践的な活用法を効率よく学べる機会となることを目指している。

なお、当研究室では、本年開催される日本心理学会第 90 回大会 (東洋大学白山キャンパス) および日本教育心理学会第 68 回総会 (アクトシティ浜松) においても、認知診断モデルに関するチュートリアルを企画している。それぞれ本チュートリアルとは内容が全く異なり、いずれも独立した内容として受講可能な構成となっている。認知診断モデルへの理解をより深めるためにも、併せて受講されることをお勧めする。

司会／豊田 秀樹 (早稲田大学)

講演／木村 颯汰 (早稲田大学大学院文学研究科)

上田 蒼斗 (早稲田大学大学院文学研究科)

佐々木 研一 (株式会社イノベーションゲート)

武田 大輝 (早稲田大学大学院文学研究科)

谷口 美紀 (早稲田大学大学院文学研究科)

9月14日(月) 14:10 ~ 16:10

大会実行委員会企画シンポジウム

「受験者視点から問い直すテストのあり方」

近年、CBT やオンラインアセスメントの普及により、テストはますます高度化・効率化している。一方で、テストに対する公平感、長時間受験による疲労、インターフェース上の負荷、心理的負担などは、受験者の回答行動や受験意欲に影響を及ぼし、測定結果の妥当性にも関わる重要な要素となっている。しかし、これまでテストは「測る側」の論理を中心に設計されることが多く、受験者の視点からテストのあり方を問い直す議論は十分ではなかった。本シンポジウムでは、受験者の視点から、現場における実践事例を通じて、「測る側」と「測られる側」の双方にとって意味のあるテストのあり方を議論し、将来のテスト設計の方向性を探る。

司会／仁田 光彦 (株式会社リクルートマネジメントソリューションズ)
趣旨説明／仁田 光彦 (株式会社リクルートマネジメントソリューションズ)
話題提供者／木村 拓也 (九州大学)
分寺 杏介 (神戸大学)
渡辺 かおり (株式会社リクルートマネジメントソリューションズ)
指定討論／鈴木 雅之 (横浜国立大学)

1. 回答者はリッカート尺度に本当に正しく回答できているのか？
—心理尺度回答における「つまずき」から回答者視点のテストを考える—…………… 18
分寺 杏介 (神戸大学)
2. 企業の採用選考における選考ツールを応募者視点から捉え直す
—Applicant Reactions を手がかりに—…………… 19
渡辺 かおり (株式会社リクルートマネジメントソリューションズ)
3. テストのフェアネス・マネジメントの視点・論点
—妥当性議論を手掛かりに受験者・制度・社会をつなぐ新たな枠組みの提案— …………… 19
木村 拓也 (九州大学)

研究委員会企画シンポジウム
「テストのパラダイムシフト」

学力や能力等に関する客観的な推論を行うために、対象者におけるそれらの特性を数量化する手段の1つとして、テストは用いられる。基本的な構造は、特性を反映するとされる項目を作成して受検者に提示し、それに対する受検者の応答を得点化することによって、特性を数量化するというものである。テストの歴史は長いが、このスタイルは現在でも基本的に変わっていない。

テストで主に測定されるのは知識量や到達度などであり、ブルームの枠組みで言えば、診断的評価や総括的評価でよく利用される。学習過程の評価のような形成的評価に使われることもあるが、テストの文脈では基本的にその時点における到達度や学習状態を精度よく測定することに主眼が置かれており、動的な学習のプロセスや変化の様子そのものを測定する試みは少なかった。

これに対し昨今では、「真の学力」や「真正な評価」など、テストの実施者が求めているものが従来のテストでは測られていないという批判がある一方で、「〇〇力」や「△△思考」のようなヒューリスティックな概念が蔓延しており、テストの改革が求められている。学習者の評価においては、相対評価から絶対評価や個人内評価が重視されるようになってきている。また、急速に発展するAIの利用も現実のものとなっており、研究が追いついていない状況である。

このような時代において、テストには何が求められ、何が期待されているのだろうか。また、テスト研究として何をなす必要があるか。学会として一考する価値があると考えられる。そこで本シンポジウムでは、これからのテストやテスト研究のあり方について、現代の世相を踏まえた展望的な議論を行うこととする。主な観点として、測定対象や評価観、テストそのもの、人や技術などを取り上げ、それらの視点からテストパラダイムの変革について議論したいと思う。

司会／石井 秀宗 （名古屋大学）
趣旨説明／石井 秀宗 （名古屋大学）
話題提供者／宮本 友弘 （東北大学）
加藤 健太郎 （ベネッセ教育総合研究所）
石井 秀宗 （名古屋大学）
指定討論／荘島 宏二郎 （大学入試センター）

1. 教育におけるテストのあり方を問い直す—理念学力と測定学力のはざま—…………… 20
宮本 友弘（東北大学）
2. CBT とデジタル学習環境が教育測定に投げかける課題…………… 21
加藤 健太郎（ベネッセ教育総合研究所）
3. テスト作成者の求めにテスト研究は応えているか…………… 21
石井 秀宗（名古屋大学）

9月14日（月）16:20 ～ 17:40

一般セッション1

テストの実践・活用

座長／荒井 清佳（大学入試センター）

1. 海外の学力調査におけるフィードバックの方法
—学力の伸びの示し方と活用のあり方の国際比較—…………… 22
山中 秀幸（株式会社教育測定研究所）
2. 認知診断モデルを活用した英語の語彙・文法学習における
理解の深さの診断とフィードバック…………… 24
内田 奈緒（岡山大学）
柴 里実（東京科学大学）
福島 健太郎（大阪大学）
植阪 友理（東京大学）
3. 面接の使用言語が顔表情と評定に及ぼす影響—母語および外国語使用時の比較—…………… 28
森 一将（千葉大学）
大江 朋子（帝京大学）
渋井 進（大学改革支援・学位授与機構）
4. 多肢選択式問題における「過不足なく選べ」形式と「2つ選べ」形式の比較の試み…………… 30
荒井 清佳（大学入試センター）
伊藤 圭（大学入試センター）

9月14日（月）16:20 ～ 17:40

一般セッション2

CBT・適応型テスト

座長／植野 真臣（電気通信大学）

1. LLM 難易度予測値を所与とした新項目シーディング方策の検討
—適応提示と逐次更新の効果—..... 32
秋山 實（咲来合同会社）
2. 通常の学級における CBT アクセシビリティ—デジタル教科書から学ぶべきこと—..... 36
村田 真（東日本国際大学）
3. 疑似欠測下における Grit 尺度の安定性
—CBT 質問調査におけるランダム方式を想定して—..... 40
佐藤 智文（内田洋行教育総合研究所）
吉中 貴信（内田洋行教育総合研究所）
村山 秀幸（内田洋行教育総合研究所）
川口 俊明（福岡教育大学）
4. 等価問題バンク分割による項目暴露バイアスと測定精度を両立する
コンピュータ適応型テスト..... 44
植野 真臣（電気通信大学）
湊本 壱真（電気通信大学／大学入試センター）

9月15日(火) 13:20 ~ 15:00

一般セッション3

項目反応理論・因子分析

座長／牧野 直道 (大学入試センター)

1. 二値の解答データから達成度を測定するためのカテゴリカル行列分解因子分析..... 46
島田 大祐 (東京都立大学・日本学術振興会)
登藤 直弥 (東京都立大学)
2. 正答確率データと離散的反応データを統合する大規模言語モデルの IRT 分析手法 50
高山 正行 (滋賀大学)
清水 昌平 (大阪大学／滋賀大学)
3. 確信度テストによる能力と確信度回答精度を分離した測定 54
南元 篤史 (東京大学)
岡田 謙介 (東京大学)
4. 高校社会科教科の垂直尺度構成の試み—構成概念の変化を考慮した測定モデルの応用— 58
板宮 拓巳 (株式会社ドワンゴ)
田沼 巖 (株式会社ドワンゴ)
光永 悠彦 (名古屋大学)
5. マルチブロックデータに対する最小ランク因子分析 62
牧野 直道 (大学入試センター)

9月15日(火) 13:20 ~ 15:00

一般セッション4

心理・教育測定

座長／豊田 秀樹 (早稲田大学)

1. 大学入学者選抜における受験者の学力特性と公正観の関係
—大学入学共通テスト得点による学力型を用いた検証— 64
木村 拓也 (九州大学／大学入試センター)
橋本 貴充 (大学入試センター)
陣内 未来 (九州大学／京都工芸繊維大学)
中世古 貴彦 (九州産業大学)
江幡 知佳 (大学入試センター)
林 洋一郎 (慶應義塾大学)
2. マウス軌跡パラデータをを用いた項目反応および回答時間予測の試み 66
分寺 杏介 (神戸大学)
加葉田 大志朗 (神戸大学)
中田 匠哉 (神戸大学)
3. 大学生のテスト経験に関する認識の分析 70
長橋 宙夢 (名古屋大学)
上木 美菜 (名古屋大学)
石井 秀宗 (名古屋大学)
4. Artificial Intelligence Literacy Scale 日本語版の作成と信頼性および妥当性の検討 74
藤野 真行 (駿河台大学)
石井 秀宗 (名古屋大学)
5. 日本経済新聞社が開発した適性検査
—日経 TEST の分析(1) 信頼性・内容妥当性・基準関連妥当性— 78
豊田 秀樹 (早稲田大学)
武田 大輝 (早稲田大学)
谷口 美紀 (早稲田大学)

9月15日(火) 15:20 ~ 17:00

一般セッション5

大学入試・高大接続

座長／倉元 直樹（東北大学）

1. 時系列モデルによる大学入試データ解析の試み (3)
—志願者数及び志願倍率の予測と評価— 80
倉元 直樹（東北大学）
2. 文科系大学生の「二項分布」の理解度の調査および教育の一考察 84
佐々木 淳（下関市立大学）
3. 得点調整におけるマジックナンバーの適切性
—極値理論とベータ二項分布を用いた統計的検討— 88
石岡 恒憲（大学入試センター／東京農工大学）
荘島 宏二郎（大学入試センター）
橋本 貴充（大学入試センター）
宮澤 芳光（大学入試センター）
前川 眞一（大学入試センター／東京科学大学）
4. 国公立大学の特別選抜出願者の共通テスト利用入試の併願状況 92
橋本 貴充（大学入試センター）
内田 照久（大学入試センター）
5. 評価から考える単元、指導の発想—結果から遡って考える方法について— 96
浜田 朋昌（所属なし）

9月15日(火) 15:20 ~ 17:00

一般セッション6

受検者の診断

座長／岡田 謙介 (東京大学)

1. CDM と IRT の比較, CDM のモデル選択

一日経テストの分析(2) 高次モデルの導入 98

上田 蒼斗 (早稲田大学)

武田 大輝 (早稲田大学)

豊田 秀樹 (早稲田大学)

2. 認知診断モデルによる適合度・分類精度の確認

一日経 TEST の分析(3) 学習者適合度の漸近展開近似 100

谷口 美紀 (早稲田大学)

豊田 俊輔 (早稲田大学)

豊田 秀樹 (早稲田大学)

3. 認知診断適応型テストにおける項目選択

一日経テストの分析(4) 項目選択規則の比較 102

豊田 俊輔 (早稲田大学)

安達 祐貴 (早稲田大学)

上田 蒼斗 (早稲田大学)

木村 颯汰 (早稲田大学)

豊田 秀樹 (早稲田大学)

4. 設問形式に基づく学習教材問題の教科横断的検討—認知処理過程による分類— 104

上木 美菜 (名古屋大学)

長橋 宙夢 (名古屋大学)

石井 秀宗 (名古屋大学)

5. 認知診断モデルの周辺項目困難度に対する参照分布の影響

—日本漢字能力検定の隣接級データを用いた検討— 106

岡田 謙介 (東京大学)

東口 琳妃 (東京大学)

福島 健太郎 (東京大学／大阪大学)

日本テスト学会第 24 回大会 発表論文抄録集

発行日／2026 年 9 月 7 日

発行者／日本テスト学会第 24 回大会実行委員会

実行委員長 林 篤裕 (実践女子大学)

実行委員 秋元 良友 (千葉大学)
鈴木 雅之 (横浜国立大学)
仁田 光彦 (リクルートマネジメントソリューションズ)
牧野 直道 (大学入試センター)
渡辺 かおり (リクルートマネジメントソリューションズ)
(50 音順)

日本テスト学会第 24 回大会実行委員会編集事務局

E-mail headquarter@jart2026.ywstat.jp

大会 Web サイト <https://jart2026.ywstat.jp>